

令和 7 年度使用

中学校用教科用図書研究資料（総評）

【美 術】

教科用図書北諸県採択地区協議会

発行者	総 評	備 考
9 開隆堂出版	<p>(1) 美術科の目標を達成するために、学習の参考となるページや関連付けて学習できるページを示すとともに、二次元コードによる映像資料等を設定し、主体的に学習に取り組めるような構成・配列の工夫が見られる。</p> <p>(2) 各題材の学習で、必要な知識・技能が部分的に図版や「美術の用語」で分かりやすく提示されている。また、各巻末の「学びの資料」に横断的に活用できる知識・技能が系統的に整理して示され、生きて働く「知識及び技能」を習得できるような工夫が見られる。</p> <p>(3) 各題材ページでは、題材のねらいや内容が直接的で伝わりやすい表現になっており、それぞれの活動でどのような資質や能力を身に付けられるかが、「知識・技能」「発想・構想」「鑑賞」の小見出しで示されている。また、生徒の活動する映像写真や、生徒作品の写真などが大きく掲載されることによって作品への興味・関心を高め、発想構想、表現方法への手がかりとなるなど、学習効果や使用上の利便性を高める工夫が見られる。</p> <p>(4) 生徒が、多くの技法を身に付け、自らの意図に応じて創造的に表現する楽しさを味わうことができるようにするために、題材ごとに、生徒作品を多数掲載するとともに、作者のことばやキャラクターのワンポイントアドバイスを掲載することで、様々な表現技法等を広く選択できるような工夫が見られる。</p>	<p>美術 1 P 7</p> <p>美術 1 P40～43 P56</p> <p>美術 1 P10～13</p> <p>美術 1 P18</p>

38 光村図書 出版	<p>(1) 美術科の目標を達成するために、掲載作品の制作過程が順を追って示されており、生徒が表現の意図と工夫を考え、美術科での学習を通して発想や構想をする力が育まれるような構成・配列の工夫が見られる。</p> <p>(2) 各題材の学習で、学ぶ知識・技能の内容を別冊（1年資料）にまとめ、生徒が必要に応じて参照できるように工夫されている。さらに、生徒の活動を支援するために、技法や制作過程の動画を該当するページに二次元コードで示し、生きて働く「知識及び技能」を習得できるような工夫が見られる。</p> <p>(3) 各題材ページでは、導入段階で表現につながる鑑賞作品が掲載され、言葉によって対話が生まれるような問いが示され、表現段階で作者の思いが伝わる吹き出しや制作過程が、画像や二次元コードにより示されている。また、題材の随所に他教科とのつながりが理解できるようなコラムが設けられ、最後に題材のまとめとして、関連した作品の鑑賞ができる構成となっており、学習効果や使用上の利便性を高める工夫が見られる。</p> <p>(4) 生徒が、多くの技法を身に付け、自らの意図に応じて創造的に表現する楽しさを味わうことができるようにするために、「表現 発想・構想」では、生徒の制作過程を紹介することで、題材別の制作のポイントや手順、発想や構想のヒント等を紹介し、生徒が表現技法等について幅広く理解することができるような工夫が見られる。</p>	<p>美術 1 P60～61</p> <p>美術 1 資料 P 2 ～ 9</p> <p>美術 1 P52～55</p> <p>美術 1 P31</p>
---------------	---	--

116 日本文教 出版	(1) 美術科の目標を達成するために、表紙や巻頭の見開きページの作品から題材につなげていくことで学びのつながりを意識させるとともに、各学年の発達の特性に即した題材の構成・配列の工夫が見られる。	美術 1 P 2 ～ 4
	(2) 各題材の学習で、必要な知識・技能の基礎を支え、生徒が自分の思いを基に活動を充実させることができるように、材料や用具の取り扱いについて各巻末にまとめられている。また、題材導入時に二次元コードを配置しており、生きて働く「知識及び技能」を習得できるような工夫が見られる。	美術 1 P48
	(3) 各題材ページでは、表現と鑑賞の一体化を意識した構成になっており、導入段階で活動や目的をイメージさせるような題材名や各題材の導入につながる二次元コード、鑑賞の見方や考え方に気付かせるような問いかけが示され、表現段階でも表現のヒントや造形的な視点としての問いかけが示されるなど、授業の流れを考えやすく、生徒に考えさせる工夫で多様な展開も期待でき、学習効果や使用上の利便性を高める工夫が見られる。	美術 1 P18～19
	(4) 生徒が、多くの技法を身に付け、自らの意図に応じて創造的に表現する楽しさを味わうことができるようにするために、題材ごとに、「表現のヒント」や「造形的な視点」を掲載するとともに、巻末の「学びを支える資料」の参照ページが分かりやすく表示されており、生徒が技法等について深く学べる工夫が見られる。	美術 1 P22～23